

第4章 基本方針

第1節 整備テーマの設定

市街化が進む調布市にとって、史跡下布田遺跡の保存と活用は、布田崖線縁辺に残された自然環境の保全と切り離すことはできず、一体的な取組が不可欠である。したがって、下布田遺跡が史跡公園として整備されることで、縄文時代に思いをはせると同時に、自然豊かなふるさと調布の地域資源としても理解が広がり、市民をはじめ多くの人に関わりを持ちつつ次世代へと受け継いでいくことを目標に、整備テーマを設定する。

【整備テーマ】

みんなで育む・感じる・発見する縄文のふるさと

【主旨】

●育む ～大切に守り伝えていく郷土の遺跡

縄文時代の遺跡と貴重な自然環境を守り、次世代へと継承していくために、下布田遺跡をみんなで育む意識を醸成する。多くの人々が親しみや慈しみの意識を持って公園を利用することで、何度も訪れたくなる、居心地の良い公園づくりを目指す。

●感じる ～縄文人の暮らしに思いをはせる空間

縄文時代とは何か、下布田遺跡ではどんな暮らしがあったのかを伝達できる歴史学習の場をつくる。布田崖線縁辺の自然環境と長年の調査研究成果を見学できる環境を整え、あるいは縄文時代の暮らしや技術を体感できる活動を通して、下布田にいた縄文人の生活と精神世界に思いをはせる機会を提供する。

●発見する ～縄文から未来を見つめる「温故知新」の場

2,800年前の縄文時代に思いをはせる空間が、現在の地域社会や暮らしを考える温故知新の場となるよう、創意工夫による活動を呼びかける。縄文時代の歴史学習、緑豊かな自然環境学習にとどまらず、多様な学びや体験活動、調布の文化や魅力の発進、交流を深めるイベントなど、来園者の多様な学びと発見につながる史跡公園を目指す。

●縄文のふるさと ～みんなでつくる史跡公園

縄文時代という日本における歴史の基層部分を、あたかも「ふるさと」のように学び・感じ取るといった意味を込めて、誰もが心安らぎ、何度も訪れたくなる、くつろぎのある公園づくりを目指す。

第2節 基本方針

1. 史跡の確実な保存

指定地に埋蔵された縄文時代の遺構・遺物・包含層に対し、必要な箇所に盛土を行い保護層を確保すること、あわせて保存に悪影響を及ぼす樹木等の要素を排除することで、史跡を確実に保存する。

なお、整備工事着手前には調査を行い、遺構が確認された場合は適切な保護を図る。

2. 縄文時代の生活技術と精神世界を表現する

縄文時代晩期とは、縄文から弥生に移行する社会の変換期であり、祭祀や呪術が盛行し、植物利用や食物加工技術の高度化等により社会構造が発達した。そうした時代の特徴を知り、この地で生活した縄文人の知恵と技術を学び・体感することで、縄文時代のくらしと精神世界を伝える。

そのため、方形配石遺構や石棒集積遺構等の縄文時代晩期の遺構は、現地で復元や表示等の表現をしたうえで解説を補足する。これまで出土した多種多様な遺物は、展示や解説を行うとともに、この地で製作されたと考えられる石鏃などの道具は体験学習に活用し、実際に再現したり使ってみたりする。

また、縄文時代晩期の植生と整合する既存樹木は活かしつつ、当時の樹種や草花の生育環境に近づけていく。

3. 自然環境を活かした憩いの空間

都心郊外の住宅地の中にある貴重な緑地として、布田崖線の地形や自然環境を活かした憩いの空間をつくる。便利で情報豊かな現代の暮らしから離れて、のびのびと自然に触れる体験を重視した活動に取り組む。

沿道に面した敷地際は極力開放し、崖線を眺めて、ウォーキングや自然散策にも利用しやすい、日常的に親しまれる住宅地の中のオープンスペースとして整備する。

4. 来園者の利便性向上と体験型活動の充実

下布田遺跡の見学に必要な案内・解説施設等は、計画地の要所に配置してスムーズな誘導を図る。あわせて、下布田遺跡の調査研究成果の紹介、遺物展示を行い、体験学習や市民活動の拠点としての役割も担うガイダンス施設を設置することで、史跡公園で行う様々な活動を支え、来園者の利便性の向上を図る。

5. 市民参加による管理運営体制づくり

下布田遺跡を公園として利用するだけでなく、運営・管理にも市民の積極的な参加を促していく。このため、計画段階から市民意見を取り入れ、史跡公園の整備内容に反映するとともに、市民参加による整備の実施も検討する。さらには、学校連携、地域自治会及び史跡ボランティアなど、市民や各種団体が参加する、協働による管理運営体制を構築する。